

2．流域及び河川の自然環境

2 - 1 流域の自然環境

本明川は、その源を長崎県諫早市五家原岳に発し、急峻な山麓を南下した後、富川などの支川を合わせて諫早市街地に入り、下流の諫早平野を潤しながら、福田川、半造川を合わせて有明海に注いでいる。上流部はスギ・ヒノキの植林を中心とする渓流部で、そこを抜けると兩岸に広がる棚田の間を流下し、中流域では諫早市街地を貫流し、河口付近では田園地帯を緩やかに流れ有明海に注いでいる。

河川の特徴としては、上中流部の急流部から一気に、干拓によって延びた平地部に移行し、その移行点に諫早市の市街地が広がっている。

流域の地質は、上流部では火山噴出物による溶岩、集塊岩及び凝灰角礫岩で構成されている。また、下流部は沖積層が分布し、干拓により広々とした田園地帯が形成されている。

なお、下流部では、平成 9 年 4 月、河口沖合に諫早湾干拓事業の潮受堤防が完成し、内側の調整池の水位が T.P-1.0m に管理されているため、淡水化と干潟の陸地化が進んでおり、動植物の生息、生育状況も変化しつつある。

このような本明川の流域には、様々な動植物が生息し、鳥類は上流にバン、ゴイサギ、中流部ではカワセミ、コサギが、下流部ではツバメ、オオヨシキリなどを見ることができる。

昆虫類は上流部にゲンジボタル、ハグロトンボ、中下流部にはバッタ類等開けた環境に適応した昆虫が生息している。

魚類は上流部にカワムツ、準絶滅危惧種に選定されているアリアケギバチ等、中流部にオイカワ等、下流域にはギンブナ及び絶滅危惧種 類に指定されているメダカ等が生息している。

植生は、上流部ではツルヨシ等が分布し、中流、下流部は湿地性～乾地性のヨシ、オギ等が見られる。

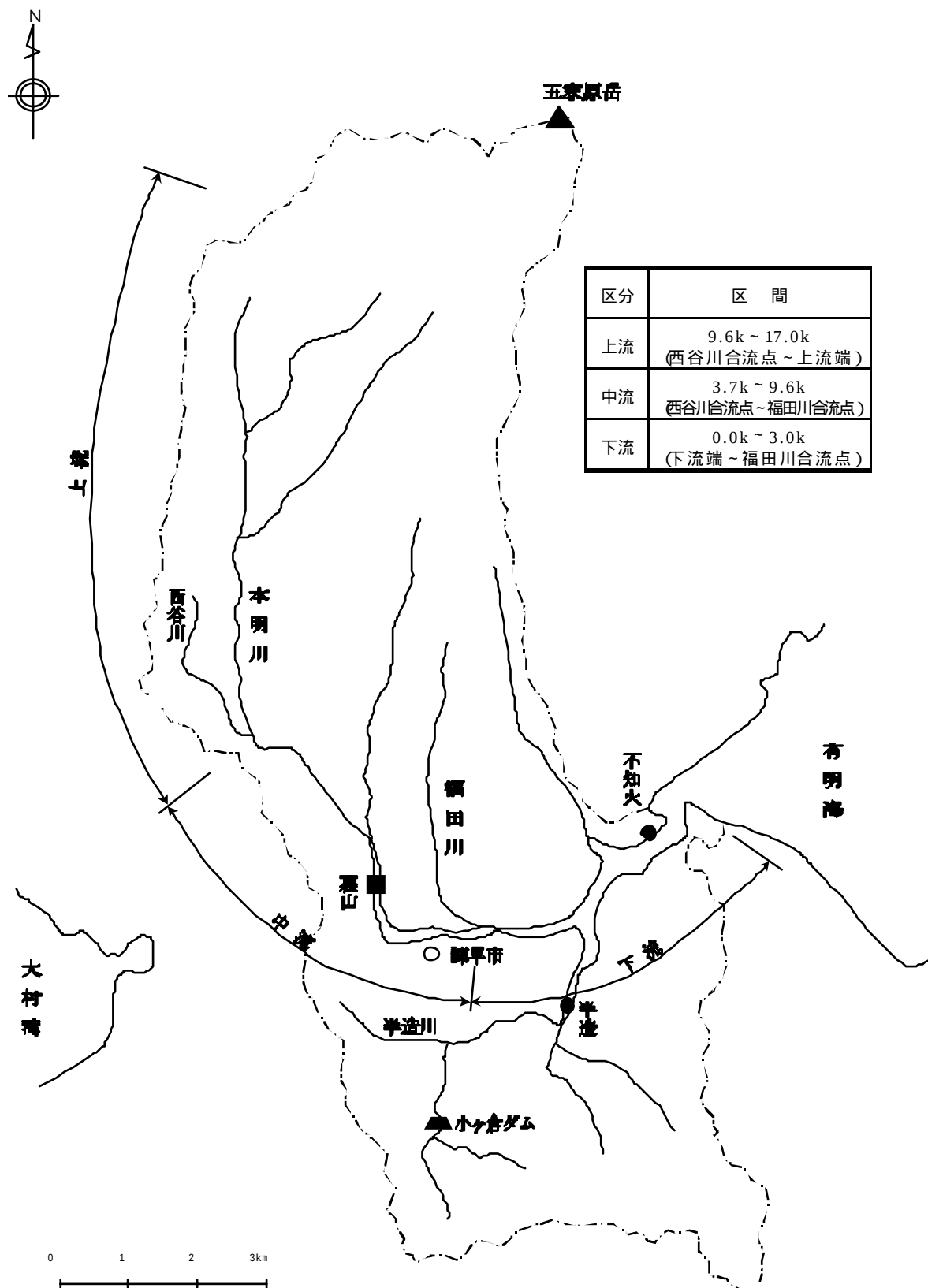
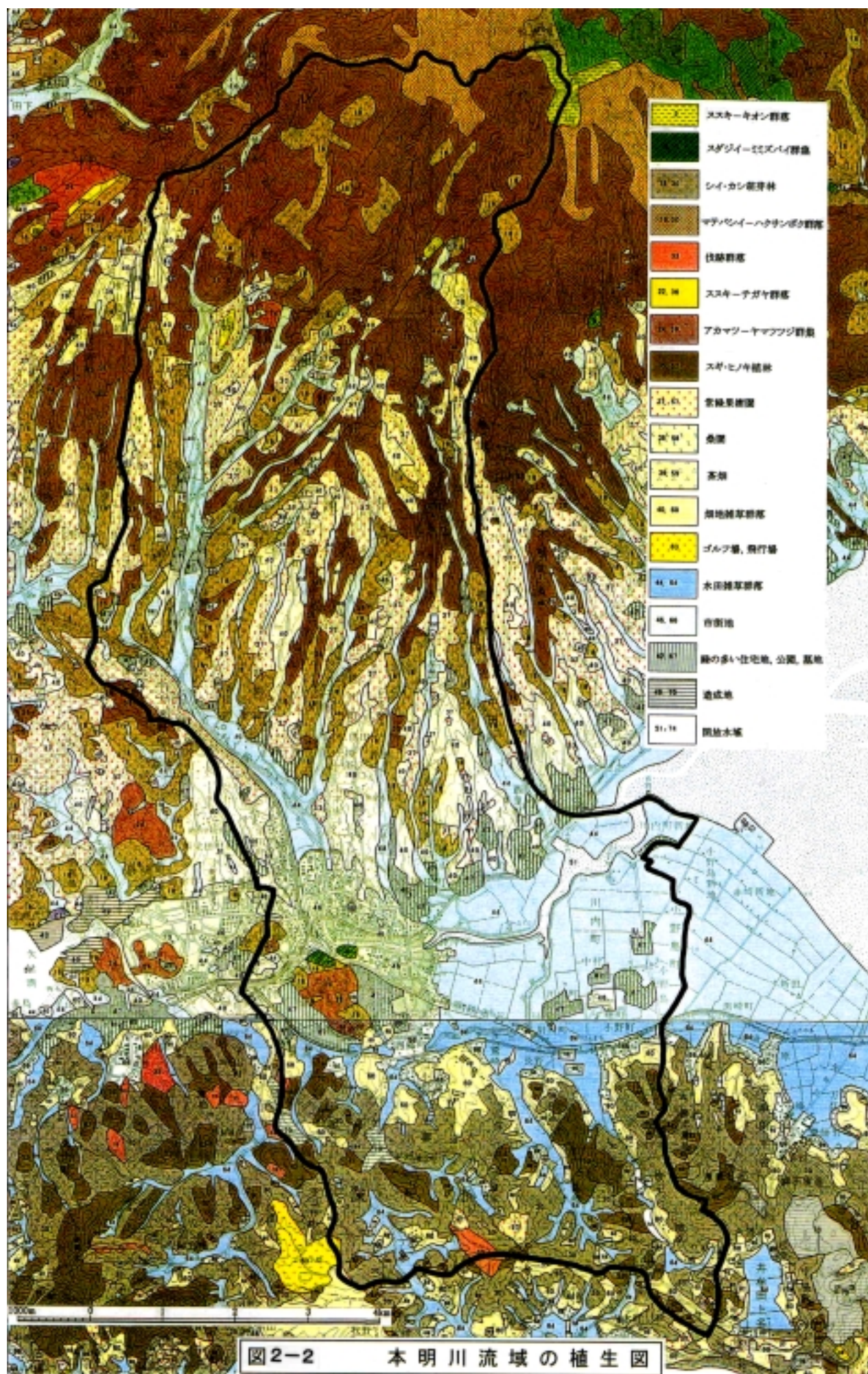


図2-1 本明川水系区分説明図



出典：「第3回自然環境保全基礎資料（植生調査）現在植生図 1987 環境庁」

2 - 2 河川の自然環境

1) 上流部

最上流部はスギ・ヒノキの植林を中心とする渓流部で、その一部の区間では河床に巨石が散在し、自然河川の様相を呈した風景を見る事が出来る。

源流部の渓谷を抜け、火山性の堆積物を削って形成された幅広い谷の底部を流下する上流部は、流れが直線的で水辺環境の変化に乏しく山付きの区間となっており、平坦な河道に点在する小規模な瀬と淵には、カワムツなどが生息すると共に、局所的に形成された早瀬の浮き石状態の礫間には有明海流入河川に特徴的なアリアケギバチがみられる。また、流れが緩やかになり、河床にツルヨシ等が分布する開けた所では、ゲンジボタルが生息している。





最上流部(溪流)の河川環境(河口から 16km)

- ・角礫状になった輝石安山岩の崩壊が著しく土砂生産が活発で巨礫が絶えない。



上流部の河川環境 (河口から 12.5km 付近)

- ・昭和 32 年の大災害以降の河川改修で護岸と落差工を設置。
- ・流れが直線的で水辺環境の変化に乏しい山付区間
- ・小規模な瀬と淵にカワムツ及び局所的な平瀬等にアリアケギバチが生息しており、また河床にツルヨシ等が分布する開けた場所ではゲンジボタルが生息している。



アリアケギバチ 【ナマズ目ギギ科】

有明海を中心に九州西部に分布し、河川の上流域下部から中流域に生息する。浮き石のある瀬を好む。

環境庁のレッドリスト(1999)では、準絶滅危惧種に指定されている。

本明川では、上流部に生息が確認されている。



ゲンジボタル 【コウチュウ目ホタル科】

河川の中流域から上流域にかけて生息するゲンジボタルは、幼虫の餌となるカワニナが生息する、農業や生活排水等であまり汚染されていない流れでみられる。成虫は夜間発光しながら飛翔するため初夏の風物詩になっており、人間に最も親しまれている昆虫類の一つである。本明川では鉄道橋より上流部に多くみられる。



カワムツ 【コイ目コイ科】

一般に、河川上流域と中流域に生息するカワムツは、瀬と淵が保全された区間に多く、水際における樹木等の木陰も重要な環境要因のひとつとなっている。本明川では、鉄道橋より上流部で多く見られる。

2) 中流部

多良山系の裾野から諫早市街部を流れる中流部は、高水敷がない単断面的な河道であり水辺には河川公園や遊歩道が整備され市街部の貴重な親水空間として市民に親しまれている。河川敷は草刈り管理や植栽が行われており、草丈の低い植物が広く生育し、バッタ類等の草地性の昆虫類やスズメ等の鳥類が生息している。水域はオイカワ等の生息場となっており、それらをエサとするカワセミも生息している。





中流部の河川環境（河口から5.6km付近）

- ・水辺には河川公園や遊歩道が整備され貴重な市街部の水辺空間となっている。
- ・河川敷には草丈の低い植物が広く生育し、バッタ類、スズメ、カワセミ等が生息し、水域にはオイカワ等が生息している。



▼ 魚つり（公園堰）

▲ 川遊びをする子供たち





オイカワ 【コイ目コイ科】

一般に、河川中流域から下流域の周辺が開けた場所を好むオイカワは、単調な平瀬的環境に適しており、本明川では公園堰周辺に普通に見られる。



カワセミ 【ブッポウソウ目カワセミ科】

河川の中・下流域に生息し、流れが緩やかな水辺を好む。飛び込んで餌を捕るため、獲物が見通せないような濁った水を嫌う傾向がある。本明川では全域がこの環境に該当するようになったが、公園堰上の湛水部で多く見られる。

3) 下流部

古くから干拓が進められた福田川合流点以降の下流部は、流れが穏やかになり川幅が広くなると共に、かつて影響を受けた有明海の潮流による「ガタ土」と呼ばれる微細粘土が堆積している。長田川合流点付近を中心に広がる広大な高水敷には在来植生であるヨシやオギが繁茂し、流れが穏やかな水域にはメダカやギンブナが数多く生息している。さらに、ヨシ原を含む高水敷にはオオヨシキリ、カワセミ、コサギ等の鳥類が繁殖地、採餌場、ねぐら等に利用しており、鳥類の好適な生息地ともなっており、豊かな自然環境が形成されている。

また、オギ群落等では葉上生活を営む特異な生態を有するカヤネズミが生息している。





下流部の河川環境 （河口から2.5km付近）

- ・ 流れが穏やかになり川幅が広がると共に、かつて影響を受けた有明海のガタ土が堆積。
- ・ 広い高水敷にはヨシが繁茂し、オオヨシキリ、カワセミ、コサギ等の鳥類の繁殖地となっている。
- ・ オギ群落等では葉上生活を営むカヤネズミが生息し、水域ではメダカ、ギンブナ等多く見られる。



ヨシ 【被子植物単子葉類イネ科】

主に中下流域の高水敷上に繁茂している。高さ 1 ~ 3m。水湿地に群生する大型の湿生植物で、小動物や鳥類の生息地となっている。



オギ 【被子植物単子葉類イネ科】

主に中下流域の比較的乾燥した高水敷上に見られる。高さ 2 ~ 2.5m。多数の葉をつけ、茎はタケ類のようにかたくなる。



カヤネズミ 【ネズミ目ネズミ科】

河川の在来植生の代表であるオギ、ヨシ、ススキ、チガヤ等に特異的に生息することから、河川環境の指標性が高いといわれている。さらに、本種はネズミ類の中で葉上に球巣を造るただ1種のネズミである。



カヤネズミの巣

ススキ群落内



メダカ 【ダツ目メダカ科】

河川の下流域や水田，水路等に生息し、止水域を好み、本明川では公園堰下流部に多く生息している。

環境庁のレッドリスト（1999）では、絶滅危惧種 類に指定されている。



ギンブナ 【コイ目コイ科】

一般に、河川中流域から下流域に生息するギンブナは、流れの緩い淵や淀みなどの泥底を好み、本明川では公園堰下流部に多く生息している。



オオヨシキリ 【スズメ目ヒタキ科ウグイス亜科】

河川の中・下流域に生息し、広いヨシ原のある箇所を好む。本明川では福田川合流部より下流部のヨシ原を繁殖・生息・採餌のすべての面で利用している。

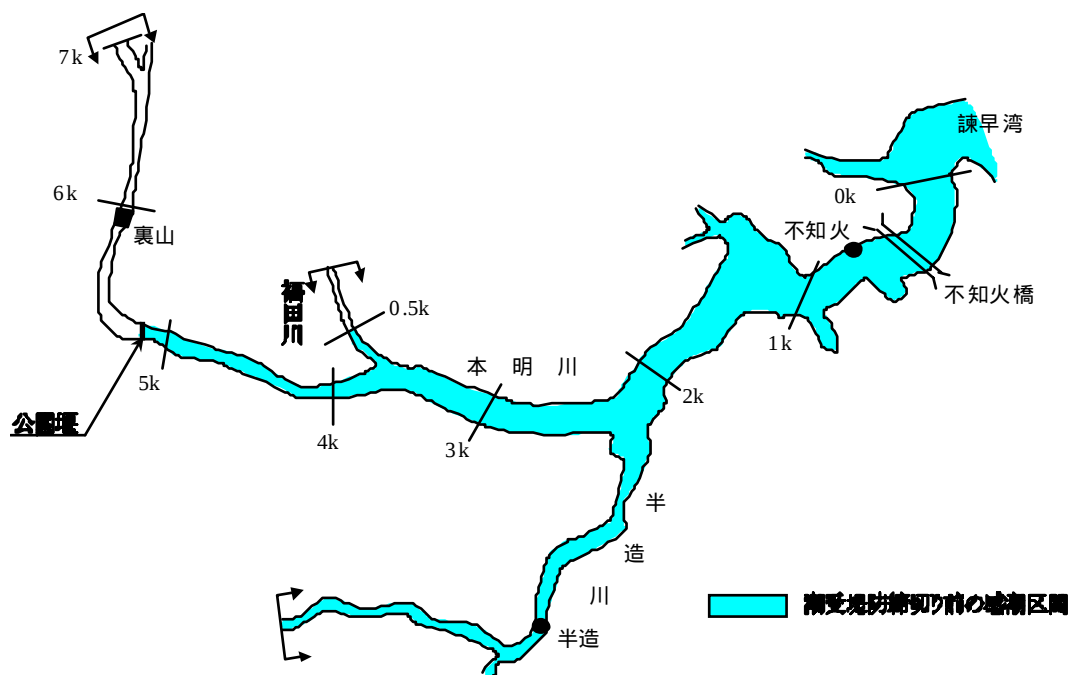


図 2 - 3 潮受堤防締切り前の感潮区間（直轄管理区間を対象）



締切り前：干潮時
干潮時にはガタ土が露出している。



締切り前：満潮時



締切り後 3 ヶ月
水域は徐々に淡水化し、また干潟部に植生が繁茂し始める。



締切り後 1 年 2 ヶ月
水域はほぼ淡水化し、また干潟部が植生の繁茂に伴い高水敷化している。

潮受堤防締切り前後における河川環境の変化 (1k 付近から下流を望む)

2 - 3 特徴的な河川景観や文化財等

1) 景勝地

本明川上流部では、水源の五家原岳周辺が多良岳県立公園に指定されており、支川富川溪谷等の景勝地が点在し、自然探勝や行楽に訪れる人々で賑わいを見せる。

中流部公園堰付近の右岸の諫早公園には、国指定の天然記念物である城山暖地性樹叢が生い茂り、市街部における貴重な緑と水の環境を創出している。



◀ 富川溪谷

本明川の上流にある景勝地で、四季それぞれの味わいをもつ溪谷美は、市民のハイキングコースとして愛されている。

諫早市城山暖地性樹叢（諫早公園内）

この樹叢は、第三起層砂岩になる周囲 1km、標高約 50m の独立した丘陵全体を覆っている。樹叢の主な植物はクスノキ、ヒゼンマユミ、オガタマノキ、ホルトノキなどが多い。特に、ヒゼンマユミは明治 39 年（1931 年）1 月に千葉常三郎がここで発見し、大正 2 年（1913 年）牧野富太郎が学界に発表した。昭和 50 年「市の木」として指定されている。



2) 文化財

本明川流域には歴史的に重要な文化財、史跡が多く、図2-4に示すとおり、国指定で3件、県指定で10件の文化財がある。特に本明川に関係しては、元禄12年(1699年)の大洪水の犠牲者の慰霊のため富川溪谷の岩壁に刻まれた五百羅漢、天保10年(1839年)に完成し昭和32年の大水害を契機に諫早公園内に移築された石造りの眼鏡橋など、水害の歴史を物語る文化財が存在する。また、諫早市の中心、本明川のほとりの巨岩の上に建立された慶巖寺は箏曲「六段」発祥の地として名高い。

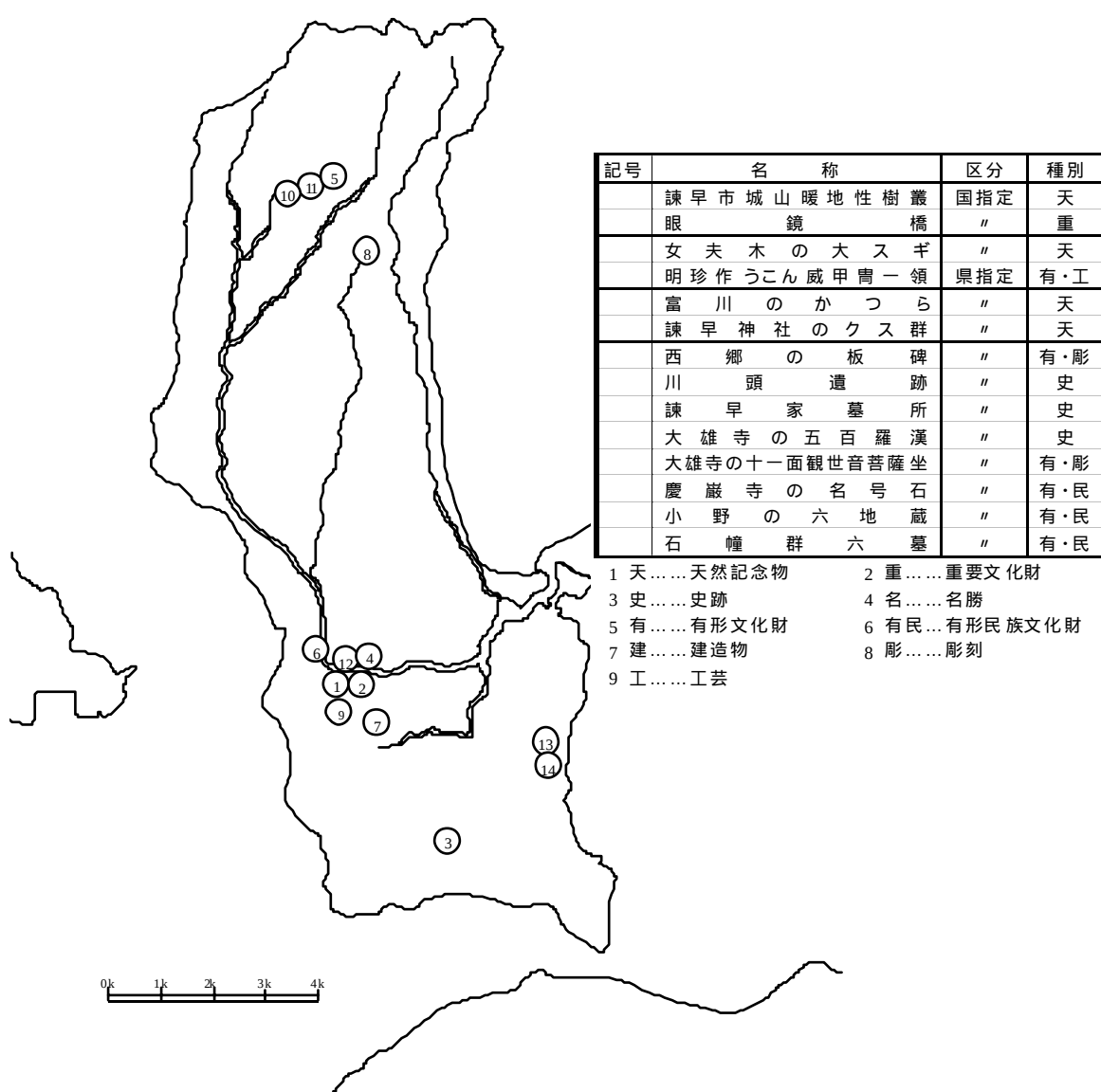


図2-4 本明川流域における主要な文化財分布図

眼鏡橋

天保 10 年 (1839 年) 第 12 代諫早茂洪によって本明川に架けられた石造橋である。昭和 32 年の大水害の際、災害を大きくしたこともあって、昭和 36 年諫早公園内に移された。



五百羅漢

元禄 12 年 (1699 年) に 487 名の犠牲者を出した大洪水と翌年の大干ばつで、当時の領主茂晴に死者の冥福を祈るための富川溪谷の両岩壁に刻まれた五百の羅漢と如来。その顔には自然への恐れと治水への遥かな願いがこめられている。

慶巖寺

市の中心本明川のほとりにある巨岩の上に建立された浄土宗の寺 (創建 1805 年) 箒曲 穴段「発祥の地」としても名高い。



2-4 自然公園等の指定状況

本明川流域は自然環境に恵まれた地域が多く、図2-5に示すように流域内の自然公園として上流部が「多良岳県立公園」の一部に含まれている。

また、流域内の鳥獣保護法設置区域として鳥獣保護区及び銃猟禁止区域が設定されている。

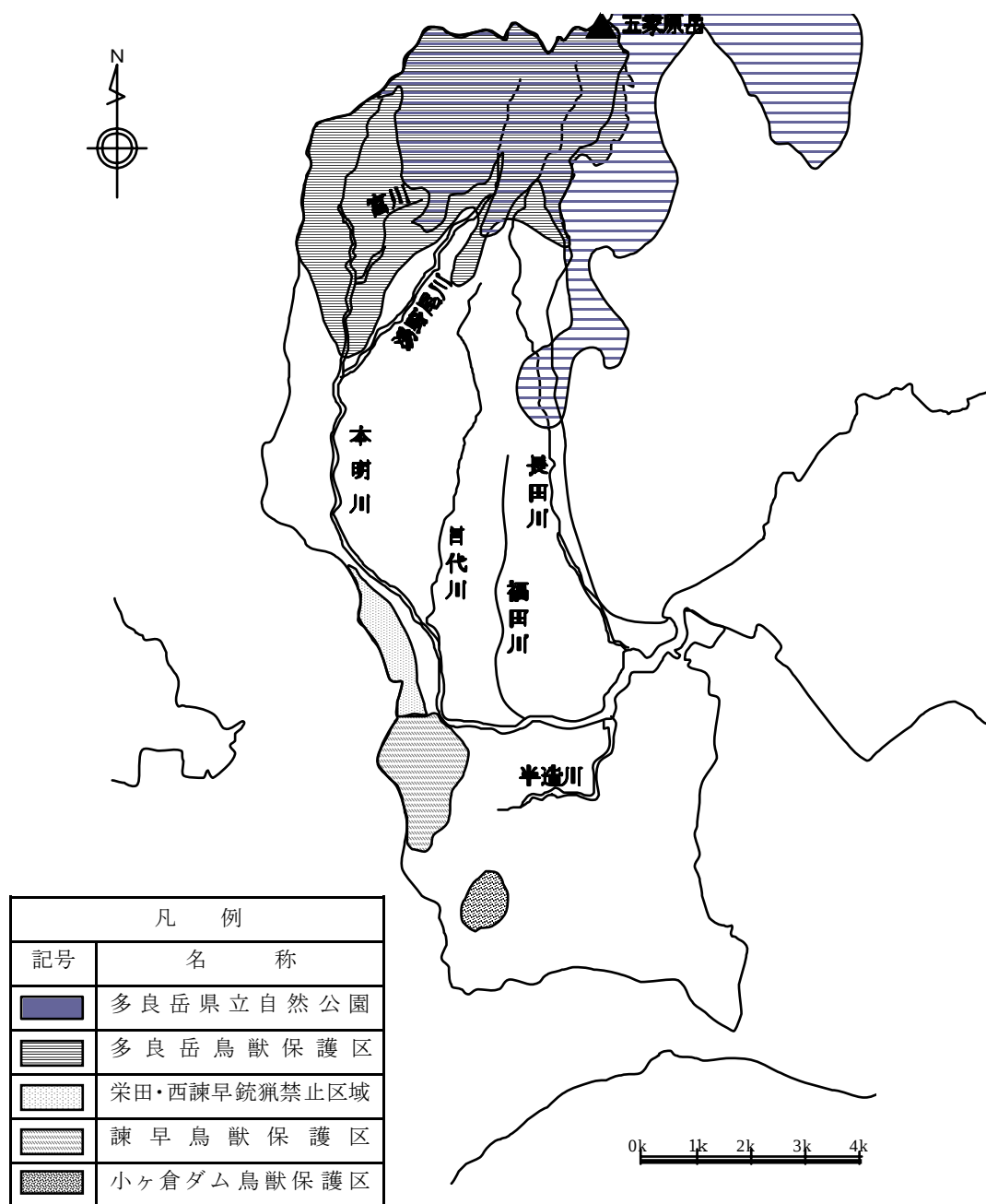


図2-5 自然公園及び鳥獣保護法設置区域図